

多くシンエダウチホングウシダ *L. commixta* Tagawa や, *L. Chienii* Ching var. *deltoideae* Tagawa と共に小群落を作っている。従来の確実な北限地は沖永良部島。

(7) *Lindsaya* spp. (Fig. 7) シンエダウチホングウシダの近縁種。矢張中橋附近の原生林であるが、通常の *Lindsaya* と異り谷より大部離れた乾地に生育し可成の群落を作っていた。裂片が小さく連合囊堆は殆ど連続するか、又は少し切れる。葉柄は四稜形なるも生時緑色、根茎は長く這い。やや疎に葉を付けるので他のエダウチの仲間とは明瞭に異なる種類と思われる。目下文献未記録のものと考えられる。

(静岡市小鹿, 静岡薬科大学, Shizuoka College of Pharmacy, Oshika Shizuoka)

○ カロリナポプラ (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: *Calorina* [popular as arborescent walk trees of Tokyo.

今まで、いろいろな人から、カロリナ・ポプラのことをきいていたが、朝日新聞社が発行した、並木道という道路樹のことをかいた本に「都公園緑地部では……風に強いカロリナ・ポプラを大阪から取寄せ、目下北多摩郡の「神代苗圃」で育成につとめている。カロリナ・ポプラはパイ煙にも強く、東京の並木のニュー・フェースとして、その登場が期待されている云々」とかいてあった。この木は通説では北米東部の *Populus angulata* Aitom=*Calorina papular* として知られている。葉の巾の広い種類で、葉柄の頂部は普通のものより一層上下の方向に平たいので、風で葉がゆれる程度も著しいだろう。もつともこの性質はこの仲間によくある性質なので、いつも風で葉がゆれる。それで日本在来のハコヤナギにツラフリヤナギの俗称もあることは中陵漫録十四巻にも出ているし、また中国の古詩にも、微風来則葉皆動とあると記している。そんなことから将来都内のこのポプラがいたるところでツラ(面)をふるさまを思いうかべると、ほほえましくなる。ポプラの葉のゆれることについて洋書にも *quiver in the wind* とか *tremble in the breeze* とか表現され、東西とも同じような見方をするようである。

